

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 風の生活館
訪問調査日	平成19年6月22日
評価確定日	平成19年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 風の生活館
所在地	246-0016 横浜市泉区和泉町5932-2 (電話) 045-800-5555

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。ロケーションはいずみ野駅からバスで3つ目、かまくら道からちよつと入った位置にあり、駅から近く、ご家族が訪問しやすい地理にある。施設の1Fはデイサービスと居宅介護支援、2Fが1ユニットのグループホームとなっている。平成13年から既に6年を経過して、デイサービスとしてもグループホームとしても確立・定着しており安心しておまかせ出来る安定感と地域との一体感がある。秀峰会では今年度より事業部制を取り(社会福祉法人なので言葉は適当ではないかも知れないが広く同一業務をまとめて管理する方式)グループホーム相互が有機的に連携しサービスの均一化、平準化、効率化を図っており効果が期待出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の人たちとの連帯感は最も進めなければならない事柄と考えている。6年の実績から地域との繋がりは深い。更に現在のホーム、介護の実態を知っていただく目的で広報活動に力を入れている。運営推進会議開催を睨んで、地域包括支援センター(ケアプラザ)や地域の他のグループホームと一緒に近隣の認知症の人達をも支えるネットワーク作りを努力してきた。徐々にはあるが効果が出るものと期待している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	6年の実績があり、自己評価に対する取り組みについては職員もども回を重ね、必要性を充分理解出来てはいるが、今回からは前述の事業部制を取り、デイと一体の風の生活館のみではなく、グループホーム相互が有機的に連携しサービスの均一化、平準化、効率化を考えてこの外部評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	泉区として6月5日にグループホーム連絡会が持たれ、運営推進会議を3ヶ月に1回ずつ開催すること、第1回を8月に実施することの連絡があった。泉区はこの運営推進会議に熱心であり、すべての運営推進会議に出席したい意向から、ブロックで開催し、一部は合同会議、2部は分科会で各ホーム毎の運営推進会議を開催することとなった。風の生活館はグループホームでは設立が古いので、第1回の世界役を仰せつかり地域の中核ホームとして活躍を始めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族は比較的良好に訪問してくれている。訪問頻度が少ない目のご家族の為にとも考え、毎月、お手紙でご本人の状況を報告し、日常の変化は電話でお知らせしている。ご家族は、なかなか意見、苦情、不安への対応などを言われない方が多いので、来訪時に声かけ、それとない質問などからご意向を聞きだすようにしている。常にご家族との連携が重要と認識して取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元や関連のボランティアの受け入れ、見学・研修の受け入れなど地域との付き合いは深い。勿論、自治会にも参画しており、行事の案内があり、参加も行っている。近隣小学校の介護教育などがあり、小学校に行ったり、小学生が見学に来たりと云った交流もある。ご近所とやや離れた立地と都会型と田園が混在する土地柄なので、運営推進会議による少し広域の交流、地元他グループホームとの交流などにも力を入れていきたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常的に、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせるような雰囲気作りを基本にしている。		その人らしさをさらに追求し、地域資源を活用したサービスを展開する。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議などを理念を確認しあう場として活用している。		ミーティングを今後も重視し、理念の共有を図る。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、開所当時から地域のイベントに参加し、お誘いをいただけるようになったが、老人会には参加した事がない。	○	老人会や祭事以外の地域活動にも参加して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を前向きに捉え、ホームの良いところ、改善すべきところを把握し、日常の活動に活かしている。		全職員が、自己評価・外部評価をより具体的に日常活動に活かせるよう更にミーティングで徹底する。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未実施。		19年度8月から実施予定。区の意向(第1部では各ホームの合同会議を持つ)により、古参ホームである当「風の生活館」が合同会議の幹事ホームとして第1回目を準備中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員を介して、ホームの見学受け入れ、区のグループホーム連絡会、地域ケアプラザでの連絡会を通して、特にエリア担当者と行き来する機会がある。		運営推進会議等を通じてサービスの質向上のためのより密接な関わりをしていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ご家族へのお手紙を発送している。ホーム長によるお知らせ、担当職員によるご本人に関する報告をしている。また預かり金の出納帳を同封している。利用者の日常的变化については電話連絡も行っている。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めていきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		同様に行っていく。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力をしている。代わる場合の利用者へのダメージを極力防ぐよう、徐々になじみの関係を作る配慮をしている。		今後も離職を最小限に抑えるよう努力する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への積極的参加を促している。研修を受けられる勤務体制を作っている。秀峰会では今年度より事業部制を取り(社会福祉法人なので言葉は適当ではないかも知れないが広く同一業務をまとめて管理する方式)グループホーム相互が有機的に連携しサービスの均一化、平準化、効率化を図っており効果が期待出来る。	○	各職員の資質向上とモチベーションを高めるために、研修受講の機会を多く取り入れたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。		法人内外に拘らず、地域の同業者と相互訪問などにより交流を更に深めていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに本人、家族の見学の機会を設けたり、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けている。また家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。		家族の事情にもよるが、見学の機会を多く設定し、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として、一緒に過ごし、本人のお力をお借りしながら支えあう関係を築いている。	○	これをケアの基本姿勢としていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から本人の希望を把握するよう努めている。日常のミーティングにおいて、複数のスタッフで検討している。		各職員が、本人の希望、意向を把握し、それをまとめて全体で共有できるようにして行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主に、職員が把握した本人のニーズを基に介護計画を作成している。日常的に家族から出される意向、アイデアを盛り込む工夫をしている。		連絡頻度が少ない家族からもケアのあり方についての意向を汲み取るよう努めて行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		現状に即して期間内の介護計画の見直し、改訂を行っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援に心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。		状況把握をよりこまめに行い、柔軟に迅速に対応できるよう努めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者について、月に2回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。ほぼ全員の利用者について、訪問歯科診療も導入している。		かかりつけ医との連携をさらに強化していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期についての話し合いをし、終末期に向けた指針の説明を行い、同意書を頂いて医療連携体制の実施に入った。		本人、家族と繰り返し話し合うよう努める。また、かかりつけ医との話し合いも行い、共有化して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。		全職員が常に意識して対応できるよう繰り返しこのことを徹底して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、臨機応変に対応している。		「利用者主体のケア」をさらにレベルアップすべく研修を行って行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底している。一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。		本人の好みをもっと取り入れる工夫をしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、一人ひとりの希望に合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。		今後も入浴の時間帯、長さ、回数など一人ひとりに合わせて支援して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、一人ひとりの出来る力、わかる力を活かした役割活動を支援している。ホーム内での楽しみごとの他、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。	○	生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をして行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、喫茶、美容院、散歩に行きたいとの要望が出ることもあり、希望に沿って支援している。	○	外出でリフレッシュできるよう、また希望を表せるような支援を今後も行って行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの自由な生活を支えるため、全ての職員が「鍵をかけないケア」の大切さを認識し、取り組んでいる。	○	今後も鍵をかけないケアを継続していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんの協力を得られるよう働きかけている。		全ての職員が身につけられるよう、確認を徹底して行く。大家さんとの関係を良好に保つよう、働きかけを継続したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好みの飲み物など、習慣を大切にしている。		観察を怠らず、一人ひとりの力、習慣に応じた支援をして行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大きさに配慮したり、窓からの光が強すぎないように、レースのカーテンを使い調整している。		利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間づくりに努めて行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーにもなるベッドを標準装備している。床にじゅうたんを敷き、その上で布団を敷いて寝るスタイルなど自由。本人の習慣を大切にしている。家庭から愛着のある家具や写真などが持ち込まれている。		居室で過ごすことが少ない利用者についても、居室での居心地の良さを追求したコーディネートをしていきたい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	1473600425
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横浜市泉区和泉町5932-2
記入者名	山崎 あゆみ

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

8

V. サービスの成果に関する項目

13

合計 100

(管理者)	山口 明彦
記入日	平成19年6月1日



地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	日常生活の中で、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせるような雰囲気作りを基本にしている。	その人らしさをさらに追求し、地域資源を活用したサービスを展開したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議などを理念を確認しあう場として活用している。その記録をもとに振り返りができるようにしている。	ミーティングを今後も重視し、理念の共有を図りたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	新規入居者に関しては、「今までの暮らしの継続」「今まで関わって来た人とのつながりの大切さ」などを伝えている。年一回、見学会を開催し、地域の人々にも伝えている。	○ 全てのご家族、地域の方々へのアプローチにも力を入れていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	回覧板を利用して、気軽に声をかけ合うおつきあいができている。	○ ホームでのイベントにもお誘いし、良好なおつきあいに努めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、開所当時から地域のイベントに参加し、お誘いをいただけるようになったが、老人会には参加した事がない。	○ 老人会や祭事以外の地域活動にも参加していきたい。

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の中に、地元の方がいらっしゃるのので、そのご友人を中心とした交流を支援している。利用者への支援中心であり、十分な地域貢献については不十分な面がある。</p>	<p>回覧板や、運営推進会議を活用して、おなじみの地域の皆さんと問題を共有化し、地域に密着した活動を検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を前向きに捉え、ホームの良いところ、改善すべきところを把握し、日常の活動に活かしている。</p>	<p>全職員が、自己評価・外部評価をより具体的に日常活動に活かせるよう、さらにミーティングで徹底していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は未実施。</p>	<p>19年度8月から実施予定。当風の生活館が幹事ホームとして、区役所と連携して準備中である。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター職員を介して、ホームの見学受け入れ、区のグループホーム連絡会、地域ケアプラザでの連絡会を通して、特にエリア担当者と行き来する機会がある。</p>	<p>運営推進会議等を通じてサービスの質向上のためのより密接な関わりをしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に積極的に参加し、必要性を理解している。</p>	<p>ニーズに応じて、スムーズに活用できるような体制を作りたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の徹底に努めている。</p>	<p>職員が学ぶ機会を作り、全体で意識を高め取り組んでいきたい。</p>

4. 理念を実践するための体制

12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	話し合いを充分に行い、ご理解をいただいている。		今後も同様に、理解、納得していただけるよう努めていきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		今後も同様に行っていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、ご家族へのお手紙を発送している。ホーム長によるお知らせ、担当職員によるご本人に関する報告をしている。また預かり金の出納帳を同封している。利用者の日常的な変化については電話連絡を行っている。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		同様に行っていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日常的なスタッフミーティングの場を、職員の意見や提案を聞く機会とし、反映させている。		さらなる改善活動に役立てていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現状、勤務時間帯の変更はしていないが、利用者や家族の状況に応じて柔軟な対応が求められることを話し合う機会がある。		新入職員採用時から理解を得られるよう話し合いを行いたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職を抑える努力をしている。代わる場合の利用者へのダメージを極力防ぐよう、徐々になじみの関係を作る配慮をしている。		今後も離職を最小限に抑えるよう努力する。

5. 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会があり、積極的参加を促している。研修を受けられる勤務体制を作っている。	○	各職員の資質向上とモチベーションを高めるために、研修受講の機会を多く取り入れたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。		法人内外に拘らず、地域の同業者と相互訪問などにより交流をさらに深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スペースが少ないながらも、休憩コーナーの確保をしている。ミーティングでの職員同士の交流を行っている。職員により仕事に対するストレスが大きい場合もある。	○	定期的に職場以外の場所でリフレッシュできる機会を検討していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が毎日、日報をメール送信することによって、職員個々の努力、実績を報告しており、それに対するコメントにより、モチベーションアップにつながっている。		今後も職員個々の状況を具体的に把握し、意欲を持って働ける環境を目指す。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご見学を受けたり、訪問することにより、本人自ら発信する訴えに耳を傾け、受け止めるようにしている。		本人の求めていることをより多く把握できるよう、良く耳を傾けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまで、家族の不安は尽きない。電話、面談の機会を設け、家族の相談に応じている。		今後も、入居以前の時点から家族のための相談の機会を大切にしたい。

25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、場合によっては、在宅の担当ケアマネジャーにつなげるなど、必要な対応に努めている。		「その時」のニーズを見極められるよう学び、各職員が相談援助の対応ができるようスキルアップしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに本人、家族の見学の機会を設けたり、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けている。また家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。		家族の事情にもよるが、見学の機会を多く設定し、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として、一緒に過ごし、本人のお力をお借りしながら支えあう関係を築いている。	○	これをケアの基本姿勢としていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談に応じるだけでなく、家族に相談する場面も多い。本人を共にケアする関係ができており、多大なる協力をいただいている。家族により、連絡頻度が少ない場合もある。	○	家族への連絡、相談をこまめに行い、共に本人を支える良い関係を継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居により、本人と家族の関係が良好になり、面会の頻度、家族との外出の頻度が多くなったケースがある。		家族へのケアを今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、友人との外出を楽しみ、行きつけの美容院に通うケースがある。馴染みの人や場所との関係を大切にしている。		入居時より馴染みの人や場所の情報を得て、関係が継続していけるよう日常のケアに活かしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性の構築が大きなウエイトを占めている。利用者同士、いたわりあい、助け合っている場面が多く見受けられる。		利用者一人ひとりが孤立しないような配慮、利用者の力を出し合って、支え合えるような環境作りに努めていきたい。

32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も関わりが必要なご家族には電話連絡をしている。また家族の方から近況を知らせてくれることもある。		継続的な関わりが必要な利用者、家族への定期的に連絡をとることを今後も続けていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から本人の希望を把握するよう努めている。日常のミーティングにおいて、複数のスタッフで検討している。		各職員が、本人の希望、意向を把握し、それをまとめて全体で共有できるようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、また各利用者担当が家族から生活歴を聞き取り、情報を収集している。本人の習慣、生活環境、サービス利用の経過等は入居前に把握するよう努めている。	○	入居前の情報収集をより充実させたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	家族への聞き取りから、本人の過ごし方、心身状態、有する力を予め把握する。入居後一日の過ごし方が変化したり、新たに発揮する力もあるので、現状を常に見極めるよう努めている。	○	常に「今」の状況を見極めるスキルを全職員で追求したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主に、職員が把握した本人のニーズを基に介護計画を作成している。日常的に家族から出される意向、アイデアをさらに盛り込む工夫をしている。		連絡頻度が少ない家族からもケアのあり方についての意向を汲み取るよう努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		現状に即して期間内の介護計画の見直し、改訂を行っている。

38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケア実践は、「個人記録」に記入している。個人記録ノートに特記事項や個人記録の詳細を記載し、バイタルサインの観察を週一回記録している。これらを介護計画の見直しに反映させている。</p>		<p>ケア実践・工夫と結果の情報を共有に努めている。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援に心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。</p>		<p>状況把握をよりこまめに行い、柔軟に迅速に対応できるよう努めている。</p>
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>区役所の展示会などに足を運び、また和泉小学校との交流は盛んに行っている。</p>	○	<p>地域ケアプラザとの関係が密になってきているので、ケアプラザを通じて、民生委員他、各地域資源とのネットワーク作りを推進していきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>法人内の同じ地域のケアマネジャーとの連携は密にとっている。現在、地域包括支援センターを介し、他法人のケアマネジャーとの話し合いの場を設け、関係作りを本格的に開始している。</p>		<p>サービスの幅を広げるため、地域のケアマネジャー、サービス事業者との話し合いの機会を多く設けていきたい。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとの関係が本格的に始動している。</p>	○	<p>ケアマネジメント等について、協働できる関係を構築していきたい。</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>全利用者について、月に2回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。ほぼ全員の利用者について、訪問歯科診療も導入している。</p>		<p>かかりつけ医との連携をさらに強化していきたい。</p>

44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>相談できる特定の専門医はいないが、かかりつけ医、ケアマネジャーからの情報を得て、随時受診支援している。</p>	○	<p>認知症専門医に随時相談できる体制作りに取り組みたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職が日常の健康管理の他、気軽に相談できる関係ができています。看護職が訪問の際、異常が見られた場合はかかりつけ医に連絡を報告し、指示を仰ぐという連携体制ができています。</p>		<p>かかりつけ医、看護職との連携をさらに強化していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際、まず医療相談員を訪ね、関係作りを行うようにしている。医療相談員との情報交換を密に行っている。</p>		<p>入院時に備えるための医療相談員との日頃からの連携強化に努めたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期についての話し合いをした。</p>		<p>本人、家族と繰り返し話し合うよう努めたい。また、かかりつけ医との話し合いも行い、共有化したい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期ケアに向けてかかりつけ医、看護職と指針を共有している。</p>	○	<p>今後の変化に備えての検討をおこなっていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えによるダメージを防ぐために、移り住む居所へ詳細な介護サマリーを提出しており、そこに連絡先として管理者名を付した。問い合わせが来た際は、本人のケアについての相談に応じている。住み替えの前の話し合いの機会は設けていない。</p>		<p>住み替えが決定した時点で、話し合いの場を設け、移り住んでもその人らしく暮らせるよう支援したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。		全職員が常に意識して対応できるよう繰り返しこのことを振り返るよう努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を表せるような雰囲気、自ら決定できる雰囲気作りに努めている。利用者一人ひとりの「わかる力に合わせた説明」について出来ていないことがある。		一人ひとりの力に合わせた声かけ、説明ができるよう、さらにスキルを上げていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、臨機応変に対応している。		「利用者主体のケア」をさらにレベルアップすべく研修を行っていく。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	在宅の頃からの行きつけの美容院に行きたいとの要望があり、対応している。特に要望を表さない人でも、美容院で美容師と相談しながら、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		理・美容院でのカットは出来る限り継続したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底している。一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。		本人の好みをもっと取り入れる工夫をしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物については、コーヒーが好きな人、冷たいものが好きな人、熱い緑茶は冷ましてから、など好み、状況に合わせて楽しめるようにしている。また個人が好きなおやつも日常的に楽しめるようにストックしている。	○	要望を表出できない人でも、嗜好を把握して支援するよう努めていく。

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンの情報について、各職員が気が付いたことを申し送りや個人記録で共有している。誘導についても個人の尊厳を傷つけないように配慮している。		一人ひとりの力、習慣をさらに追求して支援の方法を検討していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、一人ひとりの希望に合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。		今後も入浴の時間帯、長さ、回数など一人ひとりに合わせて支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、その日の活動の状況に合わせて、睡眠の支援を行っている。寝具については、ソファークラウドが備え付けで、その上に使い慣れた布団を敷くスタイル。床にじゅうたんを敷いて寝たり、介護用ベッドを使用するなど自由である。		心地よい休息のため、一人ひとりの生活習慣、一人ひとりに適した環境作りにも一層の配慮をしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、一人ひとりの出来る力、わかる力を活かした役割活動を支援している。ホーム内での楽しみごとの他、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。	○	生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、家族と相談の上、お金を所持したり、使えるように支援している。		全職員が、本人がお金を持つことの大切さを理解し、一人ひとりの希望、力を見極めて支援の方法を検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、喫茶、美容院、散歩に行きたいとの要望が出ることもあり、希望に沿って支援している。	○	外出でリフレッシュできるよう、また希望を表せるような支援を今後も行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とともに普段は行けないところに出かけられる機会がある。誕生日の機会を利用して個別に電車・バスを使っての外出を行っている。	○	利用者の「行ってみたいところ」を知り、出かけられる機会を作るよう努めていく。

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		今後も、通信の自由を支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、隣近所だった人など、なじみの人たちが訪問する機会が多い。居室、ホールを使ってゆっくり過ごしている。		温かく出迎え、なじみの関係を続けられるよう支援している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のない見守りのケアを実践している。	○	今後も身体拘束を行わずに最善の代替手段を検討していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの自由な生活を支えるため、全ての職員が「鍵をかけないケア」の大切さを認識し、取り組んでいる。	○	今後も鍵をかけないケアを継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく利用者の様子を把握し、危険時にもさりげなくサポートできるよう心がけている。		常に意識し、実践できるようスキルアップに努力していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感のある環境を大切にしつつ、一人ひとりの状態に合わせて危険を防ぐ工夫を心がけている。		危険を防ぐために一律に物品をなくすのではなく、状況をよく見極め、生活の場としての空間作りのための工夫をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な避難訓練、誤薬、転倒を防ぐための対策など、事故防止のための取り組みを行っている。		一人ひとりの状態をよく見極め、事故防止の取り組みを強化したい。

70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>救急法の研修を随時行っているが、定期的には行ってはいない。</p>	○	<p>定期的に研修を行うことにより、全ての職員が繰り返し学び身につけていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんの協力を得られるよう働きかけている。</p>		<p>全ての職員が身につけられるよう、確認を徹底していく。大家さんとの関係を良好に保つよう、働きかけを継続したい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>その人らしい暮らしの支援のため、リスクについて家族等に説明し、話し合っている。(ハイリスクの利用者のみに留まっている)</p>	○	<p>一人ひとりに起こり得るリスクについて、各家族等と話し合っていきたい。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルサインをよく観察し、気付きを連絡ノートに記載することにより、対応に結び付けている。</p>		<p>全職員が連絡ノート活用の徹底を継続する。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの薬の情報は「医療ファイル」に保管、随時閲覧できるようにしている。薬について熟知していない職員もいる。</p>		<p>全職員の薬についての理解を深め、服薬による症状の変化を観察できる視点を養っていきたい。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘が及ぼす影響は顕著であり、職員はよく理解している。カスピ海ヨーグルト他、飲食物の工夫を行っている。</p>		<p>一人ひとりの便通の状況を把握し、予防と対応を継続的にしていく。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>朝、昼、夕、口腔ケアを実施している。一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>週一回の訪問歯科診療医と連携し、日常的な口腔状態の観察や、適切な口腔ケアを実施している。</p>

77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好みの飲み物など、習慣を大切にしている。		観察を怠らず、一人ひとりの力、習慣に応じた支援をしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には感染症に関する診断書を提出してもらっている。年一回インフルエンザの予防接種を実施している。ノロウイルス対策のための清掃方法を徹底した。		感染症に関する勉強は継続したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は主に夜間に消毒を実施している。生活の場としての衛生管理に注意を払っている。食材は新鮮で安全なものを使用している。年一回、衛生管理講習会に出席している。		衛生管理に今後も注意を払う。また、衛生管理講習会の内容を広め、さらなる理解に努めたい。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階建てで、1階がデイサービス、2階がグループホームになっている。敷地まわり、庭、ウッドデッキ、玄関まわりには、枇杷の木他様々な樹木が植えられ、季節折々の花が咲き、親しみやすく美しい環境が整えられている。		親しみやすく、安心して出入りできる環境整備、工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大小に配慮したり、窓からの光が強すぎないように、レースのカーテンを使い調整している。		利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間づくりに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビング以外のこじんまりとしたスペース(廊下、洗面所など)にもイスを配置し、利用者が独りになれたり、利用者同士でくつろいだり、職員と利用者が一対一でゆっくり関わる際、活用している。		スペースを活用して、利用者同士で思い思いに過ごせる雰囲気大切にしている。

83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファにもなるベッドを標準配備している。床にじゅうたんを敷き、その上で布団を敷いて寝るスタイルなど自由。本人の習慣を大切にしている。家庭から愛着のある家具や写真などが持ち込まれている。</p>		<p>居室で過ごすことが少ない利用者についても、居室での居心地の良さを追求したコーディネートをしていきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気・室温については、スタッフ間で確認しながら適宜調整をしている。</p>		<p>外気温と大きな差がないよう配慮し、こまめに行うように支援していく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室などは手すりを設置している。リビングや居室は家庭と同様にしている。家事などの役割活動、散歩など身体機能を活かした活動を行い、機能低下を補っている。</p>		<p>一人ひとりの身体機能の合わせた環境整備を検討していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレに目印をつけ、居室の入り口には表札をつけている。</p>		<p>一人ひとりの「わかる力」、どんな場面で混乱するのかを把握し、家庭的な雰囲気をこわさないように環境の工夫を続けていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでは、利用者が洗濯物干しを自主的に行ったり、ベンチに座ってくつろいでいる。1階のウッドデッキは大人数で利用できるの、陽を浴びながら身体を動かしたり、お茶を飲むなど有効活用している。また、デイサービス利用者との交流できる絶好の場でもある。庭の花摘みや野菜の収穫も楽しんでいる。</p>		<p>外周りの環境を今後も有効に活用していきたい。</p>



V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	—	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者がそれぞれの思いや希望を表し、個性を多に発揮しているホームです。役割活動を進めていくうちに利用者が自主的に行う雰囲気ができ、職員は一人ひとりのペースに合わせ、達成感が得られるようそっと見守りながら必要なときに必要なサポートをするよう心がけています。言葉での表現が難しくても、利用者の思いに寄り添う姿勢で、今、出来る力、わかる力を大切にしてそれを活かせる支援をしています。
- ・役割活動や趣味活動の他、日常的な買い物や喫茶、祭事など、外出によりリフレッシュを図ったり、社会とのつながりを大切にしています。
- ・デイサービスと併設しており、希望に応じて活動や交流の幅を広げる機会があります。
- ・安心して医療を受けていただけるよう、主治医、訪問看護ステーションとの連携を密にしています。
- ・元気の良い愛犬ちどりが場を和ませ、季節の花が彩りと潤いをもたらしている美しい環境です。

